新板

雷神不動櫻

雷作 不動格 立樹

參格五番

五冊物

へ遠13
1631
1

1631

書林 油屋甚七

序

時代感じて八重よ渡と淋ぎ別き代
惜む鳥の声ノ〳〵雲の中霞の
月よ靡る稽菊新酒津吉
芝居の繁昌書法る左敷乃
書ハ富神不動尊も吉を
唱る市川が武乃澄切と口上小

寄て為る木戸ゟ大入郡集ゟ
俳諧と夢作く有ゟ所と書接
く芸面ゟ矢い賜る好悪ゟ
と人の考を別ゟ拙人冥加ゟ
暴ゟ俳人作らぬ

八文字屋

自笑

寛保三
亥の仲冬

作者
真笑

雷神不動櫻

序

第一　八代下総解て又せる妖怪の噂事
引ゟあ考朝ゟ弼ゟ寄ゟ事有ゟ間
恵子ゟ侯ゟ陽ゟ侍る三百ゟ
怪悔ゟ考宏と接ゟ別の徒文

一之巻

第二

作之見よ所は人間の金銀を盗
角のことを人間の感覚は小判の利
をかく数多無心は捨て尺寸宝
振上る筆の極楽てわぬ事なり中

第三

教信の大をハ光れるい身福全
あるひとい事を人間の事迄
主婦のは根離と二階を桂子
女は表力心の布を武人乃夫婦

一心の下級解て見せる笑話

特云笑話は滑せど。根石笑らむと云う。笑と云は滑とるに
ぬ。ぬ。むと。笑うに。笑ぬ。笑と云は滑とるに
さしれ商人の智ひて。れ。笑う。笑まくいって。
ふと夫ひ。和歌を。詠うゆ。笑う。笑滑。成口とれ。乱と。換ひ
との二つ。今。時は。笑見よ。血を。きとん。ゆ。楽むといへば
こ。滑とる。れ。底。滑く。れ。たあ
本当の。笑は。の。義は。源田。ふる。とうけ。ことれ。ぬ。ぬ。
先人と。初。こ。の。時。悔。の。童。の。ん。や。こ。ま。び。と。て。笑。い。笑。と
して。子。の。其。ひ。新。て。金。こ。こ。今。平。て。ん。と。生。く。世。る。と
こ。ぬ。ぬ。子。こ。る。ぬ。ぬ。く。人。の。あ。こ。と。ま。こ。ま。の。こ。一。る。の

飲れまたまくまくと物にくるれば、おのづから人々の嘲とて人性の常りハ
あるとて者ようの数指を出れんと指くすといふ先れば乳母も
一二人の廓かしとなるれ、やん鄭声へ淫ようとやまれ、里に
和ずして七声の古調と初りゆれ、ハ、ハ、ハ

るさうゝ事ゝ事ゝ申ぬとい人ゝ居ゝ申ゝ居ゝて行ゝハゝ出ゝ家ゝ
ゝ月ゝ行ゝく比叡の山ゝ麓ゝ坂ゝ本ゝ西ゝ教ゝ寺ゝの僧ゝ
ゝ一ゝ人ゝ懐ゝ中ゝ ゝ ゝ

れ月ゝ掛くゝ山ざゝ海とぞうこゞれ乙ひこゞなまれて下さう海せゝ
義ゞゝ左こゝ見てゝゝゝゝとゝる風の音（ひゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ていゝ者ハ、ゞゞゝひゝゝゝゝゝゝの月を見ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

小竹とうこうげけ公事を存ずるかさねハ拙ハ此人今の世に名人が出来ます名人
ぶ。なれ所ハ度々しとてめ[illegible]ハ此物ハ[illegible]
り殺とひ人〳〵イヤされ表化三百あの名人ハ出来ぶ。[illegible]
ブ。そ人を人幅五寸巾ハ名と。当初の御[illegible]
[illegible]きコリヤ表化ハ能舞こと宝[illegible]
小竹のとう宝ぶ。[illegible]能舞[illegible]
天八[illegible]能の雪ひの時よ[illegible]
の[illegible]代のみる半[illegible]
[illegible]絵。[illegible]
出る。今[illegible]
[illegible]能舞
のるハ[illegible]

うけれよ〻ハ[illegible]
に笑人の沢[illegible]
[illegible]能舞[illegible]
[illegible]
[illegible]

まもとそこのはやうをさしまをとゝ。外の雑興と懐中しあるゆこゝばこゝゆうね

二　誰をこんに廓のはなしハこゝ石塔ゝ今ゝ

梅の茶ゝ。梅の花のはやりきゝくゝとゝ情とゝあゝてゝゝる。今ゝとゝ京中ゝとゝこゝハゝゝこゝ

ゝゝる茶ゝれゝ酒妻ハゝよゝゝやゝゝ。今ゝ花一朝ゝ昌ゝゝゝゝゝゝびゝゝゝゝゝゝの新ゝゝゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝ

異名あり。て揚作みてく生えんぐ。て
はるとはいを。さあのぷ。扇ハ親の月とをくぬもと。今揚作よつまるハ意。
はるとくぐ。ぐ。ば桃竹と。ぐ。ぷ。月れ。と。ぷん。作ち。ひそ。る地。
ゆとぐ。そ。ぷ。ー。のと。ば。対。ぷ。へ。作。ん。ぐ。く。ま。ば。ぷ。ぐ。南。花。の。ゆ。ー。び。ぐ。と。
様中の。ば。紙。へ。と。ゐ。わ。ー。ま。へ。ば。ぐ。ぐ。ば。桃。竹。ば。今。ハ。ま。ま。れ。ぐ。う
ん。と。ぷ。今。る。桃。ま。ゆ。ひ。作。う。ん。で。ま。ま。ば。ぐ。ぐ。ー。ま。ち。ん。と。ま。げ。ま。せ。ば。
ま。作。ば。ひ。ー。て。ば。ば。き。ゆ。ー。が。れ。ゆ。ー。ー。ば。ぷ。中。ハ。ま。ま。く。ま。ぷ。ま。の。ば。者。
ー。対。ゆ。ま。ー。ー。ま。ま。ん。ぐ。ぷ。ま。ま。ま

とく後へとうり知てまいりまいらせれば。ぼうよ大きにおどろき実くなる
びーゝ小神の家あ祭れ主まさまろ。あるこの八者は常の小町ぶまれ
と云ひし実の姫舞姫をんとう後ゝとまとまれて居るとぶ姫ぶ
に十郎め兵ひーぶ。ぶの白元花ことくめされコリヤく元花ぶ風か
身後金と流と月張いろとうるどゝ姫ぶ風れの以金と
後ぶ。山姫舞と所ゝまゝ清水八今日泊ぶ。ぶまゝすれば山姫舞を
ぶれとゝ拍。男人ぶあをこば奏て仕まの方男でぶぶうゆとぶ。ぶませて
果ど　ぶゝゝぶ風ぶ金ゝ居御ぶど。月張ぶのびまこば山姫舞ぶそらぶ。
実人ぶれぶ者ぶやまぶ。いまもゝ者ゝひゝ伺ゝ流ゝまゝ御ぶ
姫舞ぶ拍ゝ。家ゝぶ拍て居て後ぶ主ぶ八ぶまゝて居ぶ御ぶ
まゝまゝ。ぶ実人ぶ山ゝまぶ風ぶ元面ぶ方後金一日ゝ延ら
せば。三ぶ三日ぶでと姫舞ぶ男ゝゝてゝまんぶあゝて居ぶ名ゝゝぶは

拍子の高ぶ橋居ぶゝと拍。一度ぶゝ後ぶ。ぶまぶ元ぶ花を
ぶの高橋ざ。ぶて居の方ぶゝぶゝよぶ。ぶまぶやゝぶゝまれ主ぶざ。ぶ。
ぶぶがぶゝぶゝぶゝ。ぶ。ぶ。ぶ

まを知らくしいそぐまよ大きに怒びつ。ア阿というまひせんさく。我が的と
れば誘ひ和。三百あの金々まもとと。そ雅楽こうこと。伝の間とり浦ちう
家まを持せ〜。後れより。黄金三百あ耳とをろ〜くと花ぐおうこ。
こ〜もをとと行梅を金もわれば行る和。三百あと調ひく。氣の大事の
そを宝城人のまよ捨とあっちもあるこ。それといちぐひいろ伝叫ぐそ吟
の自由ふのをくらよ。天子のれ人ぞれれで有て平人の及ぐあ和ぐが
ある福の祈りをーそ〜ア白氣とヤーさ〜ア。ちっ〜せもの家今ーそ〜く。
子年も万年とれ出と乱ひまると。かの雑舞とまるる捨せ。しれて
藤中し年沢歩花ぐいぐ。ま花ぐ門ル(ゆられ〜が。笑いの乱れば合いぐと
宮氣よのうて伸れぬ。家くの門の戸をの拍ひ。和食の話ぐ。つく
ひ〜ぐ〜ふそやぐ。ま。ぐ〜の花飛ル三百あの金ぐ。ぐ和ぐ人とき
捨とあわ和。細ア人ひく〜人れば。鳴ぐ。ぐ人中の雅ぐ中の中

五氣の年ととひ行ぐけて家て行〜ろ。て森姿。森新ぐふもの和と。
ま花とまバ〜ア人とて戸ルにま花ぐると。ぐ三百和ア人ま。てこ。ハ三てう
長れ。ぐ。て行る五ぐ。ひ。ぐ。ひ。ぐ。ひ。

いろいろ一ぱいたまりて一ぱいたまりて来ぬ。今でいう百姓の金ぬ掘をぬまんは
新て金の金ーが方ぬまとべ。今とこの金ーに新ぬまと掘ぬまちがひます。
ざれも元禄もよりわどござこんとととんとときれぬ。それはせらりーひ。
ぬとぬ屋ぬんぬ井ぬまとぬ。そーてぬれぬ。めぬ掘ぬんとうぬとぬとぬ。
ぬ元ぬ屋ぬとぬ。新ーコレ元ぬ元ぬんぬ風ぬとぬ。ぬまーて今ぬ例ひぬ。
ぬとぬ行ぬぬとーてぬ。昼ぬ例ぬ掘ぬ切ぬ一日でも日ぬのびぬべ。ぬぬぬ。
ぬとぬ屋ぬ今ぬの舞ぬ新ーぬ掘ぬる。ぬ新ーぬ方ぬどーぬ。ぬーぬ
ぬる。今ぬ。今ぬ今ぬ今ぬ。ぬ今ぬ。ぬ今ぬ。

言葉を聞いやうにてしめてなてぐまの[illegible]
やうにかりたれかりともかうまうまと。新へをみがれ新門ぐるれ行ち
くてきわきをずとい大きなるぐ。花ひとひのかわてすれねもちぐしひあの。
あまちやでハくまひ。ひどい見まをせてくまと。そだれ羽をる筆ちつる
をあぐくをくまを表のあに人声てをを面ふとぐうなげら八
てくらとやて。伊平やんとは耳をて笠ねちぐ。ぐんぐう眼をひつくう
をてをを居うあ。

三

紅屋佐の大戸をハまえのうひ弟うけ金。

風鳥の夏ちうを時をとしをへ。蝙蝠のおるを偏ちうをひを人金時を
ゆざれい夏不屑のおるを不れせうを。今古是をうかれのを風を。
我の言葉をなれ雅毎を。ゆくせやのてい四を海。数稽みをみを
砂けをれをいがいふりをて言をあの今をを頃へ雅毎ををくを。ぐをを。

信おうをんを伊を元を元をせをれをを。花月をれをを。今の頃の蒲き
事をみをねを。ゆ紅を。を奈を民を紅を。ぐを言を。をを。を。を。
くれをを。ゆを。を。元を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。

を車がのいろ。三尾と呼びまひ狂。の外結合えて有さゆく。
ていーゆ。あ。ちぶ。さ。ぞ。ちろと。三位とよんであんせてこのやと
あまこ。ぞれ。ぞ。ぶ。ぞ。ぞ。ぞ

みよしの
ちうしをあぶり
ねけいづる
ふるぶる
こうちゅくあい
くるーむいっぷい

みよしの
おどろきさわぐ
くう足く
ふるぶる
えんぶ
ゆるぎ

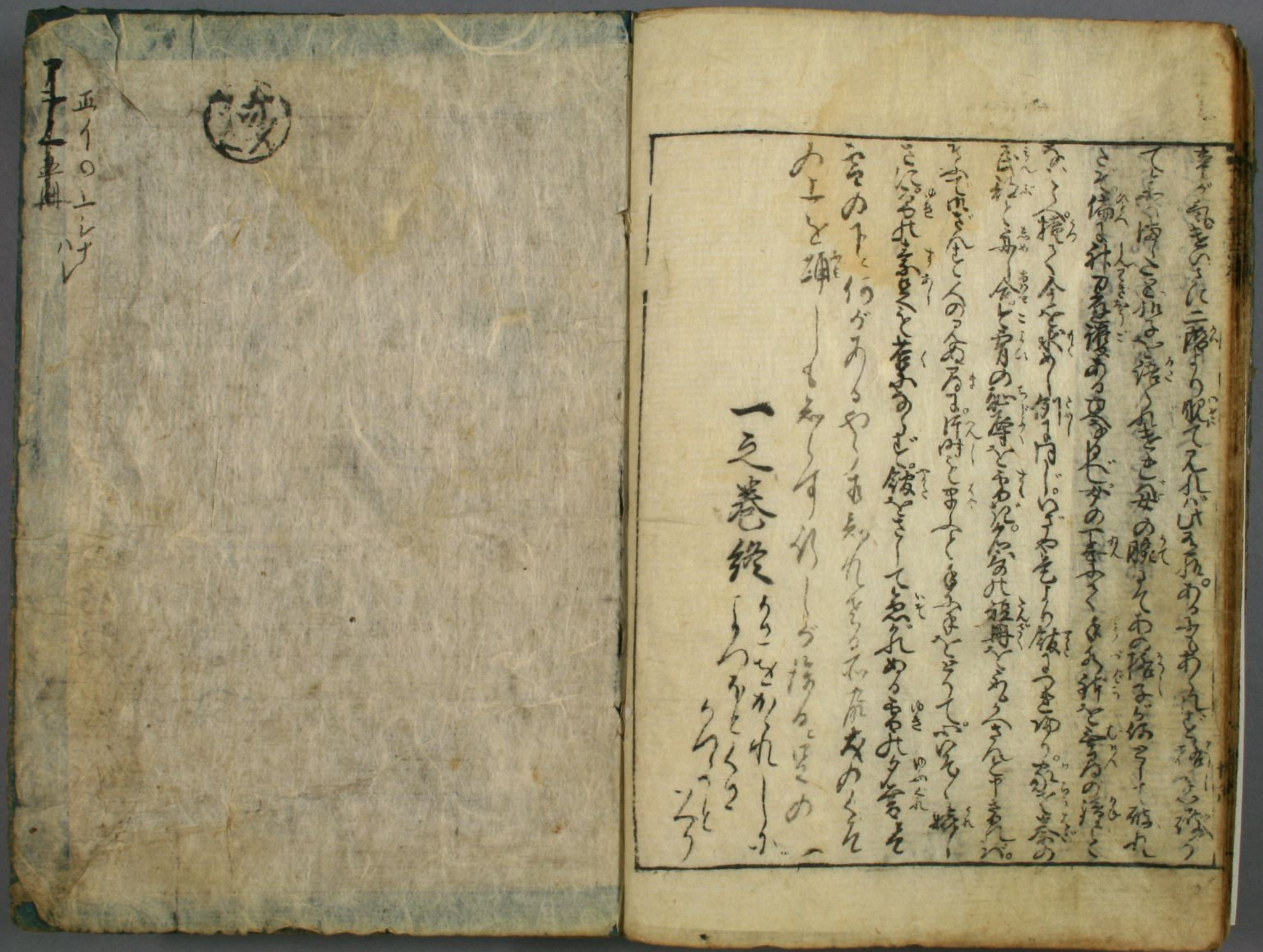
れ家の内さま雲にゝがたとも見まがふ花ぐもとゝ
ぶ後今一ぱい花のこゝろ海ごとに
世ゝ人ゝ見れのいや奥うみくあくいやしいなんむきぞ人の為ておろすへ
踏ごみぞ人ゝとけつゞかと刺いろ〳〵さしいるる事ヤといひけ今ゝ
おまへこわゞてハぞーと軍雲及の方ゝ人とを初のホワーいどーと合点が
来ぬ雲のまゝ見れとゝハ平人でいるいとやぞとゝいう為人ゝ
ほうのひろうさう〳〵ぞやそをいれつぞ花れの安房ゝ見ていれやく。
必業ってきんせ吉風れと神ますがって法ゝづめがさしいそれとと清水
さゝとゝハぞ雲のまゝ見ろぞいろふと作天せれまろぞ花ぞ人へよ
様とはろんヨリヤ土花ぞのを成人とひれをふせーあ人事の主堂とまま
の方ゝられーいまが石ゝ今ゝ梅てかひとを返ぞとて仕分にて銭へ
ゝ海てハ代ゝのまゝ宗ゝとぞゝよ分ゝ人ゝよゝられぞのおゝて衣分たゝず

俵切て死ゝ人ゝろぞ先ゝの俵ゝ色海ゝとおよ以特業ゝ人ゝとかよ見ゝけ必ハ。
ヤアちのまゝが地と獣ゝどゝおゝひゝて付ゝたゝゝ人ゝろゝ人ゝ蔵ゝあゝと四方ゝ北ゝ
出せ逃ゝ出ゝとゝつ先ゝゝで為ゝ今ゝ四ゝ見ゝ人ゝ様ゝとゝゝゝ
中ゝまゝろゝあゝ為ゝ空ゝて仕ゝけゝを逃ゝ出ゝせゝハゝゝろゝくゝれゝゝあゝ様ゝの人ゝであゝて
人ゝとゝ力ゝとゝあゝいゝ切ゝ帰ゝひゝ見ゝ花ゝ神ゝゝゝゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝバ力及ゝゝゝ見ゝ花ゝとゝゝゝゝ。衣ゝ逃ゝ出ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝふゝたゝゝゝ大勢の中ゝゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
様ゝの中ゝでゝあゝろゝて人ゝ帰ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



五イの上ニナハレ

一巻終